

【市内民生委員対象】ひきこもりに関する実態調査 調査結果

本調査は、長岡市の「ひきこもり」の実態把握を目的とし、市内民生委員に対しアンケート調査を実施したものです。

実施の時期 令和5年7月～令和5年8月

実施の方法 市内各地区の民生委員が調査時点で把握している「ひきこもり」の方について、アンケート形式で回答を求めました。回答方法は郵送による紙提出又は専用のインターネット上のアンケートフォームのいずれかとし、必要に応じ、電話対応も行いました。なお、本調査への回答を目的として、民生委員に訪問調査等を依頼することはせず、あくまで現状で把握している方のみを対象とした回答を依頼したものです。

回答人数 472人 (回答率 96.9%)

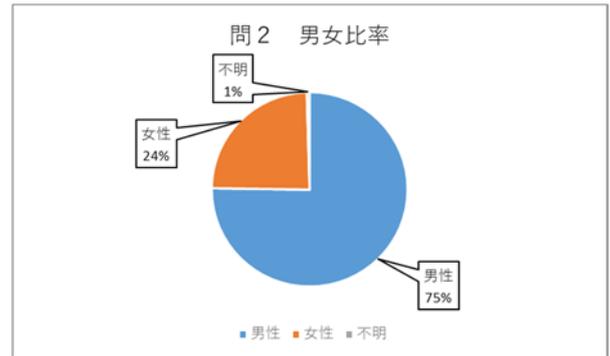
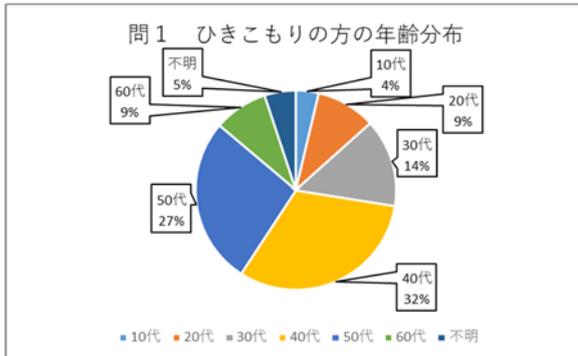
ひきこもり該当者数 218人

※ 主任児童委員からも参考に回答いただき、上記とは別に6名の該当がありました。この6名については参考値とし、集計には含めていません。

〈 調査結果 〉

(1) ひきこもりの方の年齢及び男女比率

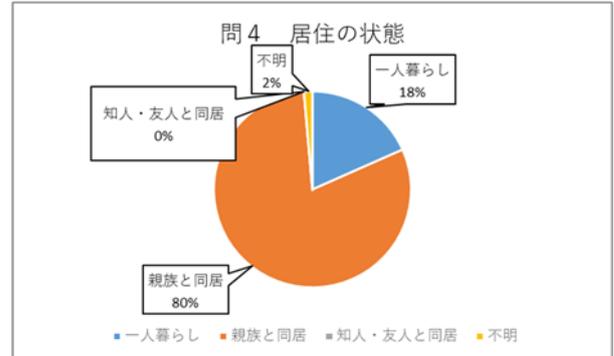
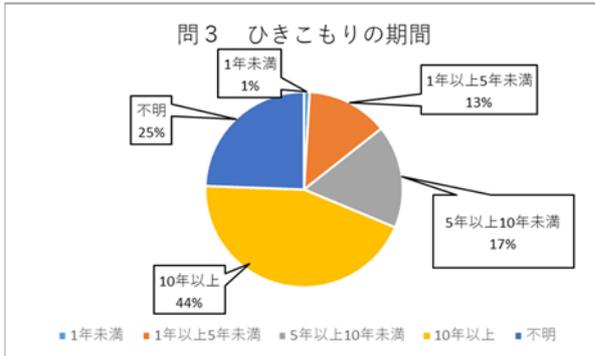
市内民生委員が把握しているひきこもりの方の年齢層では、40代が最も多く32%、続いて50代27%、30代14%となっており、40代～50代の中高年のひきこもりが多い傾向となっています。また、男女の比率をみると、男性75%、女性24%となっており、男性の割合が高くなっています。



民生委員の業務として、高齢者の見守りで訪問をする際に、ひきこもりの方の相談を受けることもあり、8050問題として取り上げられている年齢層に直結する業務内容であることも、今回の結果に影響していると考えられます。

(2) ひきこもりの期間と居住の状態

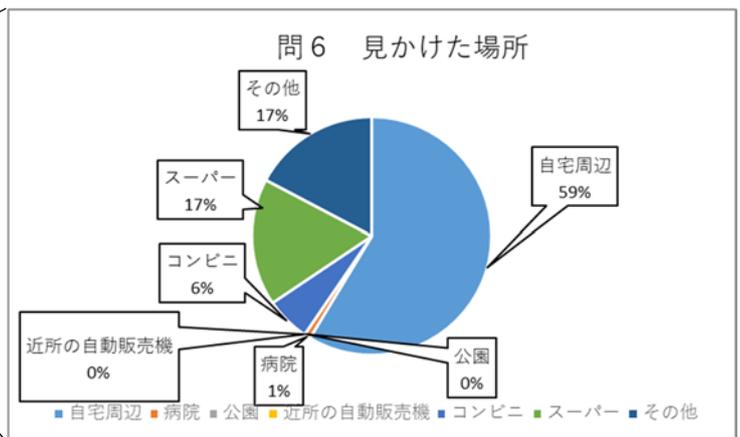
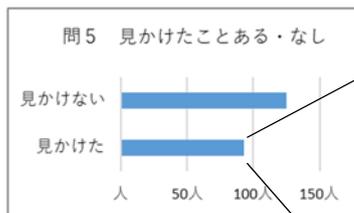
ひきこもり期間は10年以上が最も多く44%、続いて5年以上10年未満が17%となっており、長期間にわたってひきこもり状態にある方の割合が半数以上を占めています。また、居住の状態は親族と同居が80%と大半を占めています。



10年以上ひきこもり状態にある方が多いことから、ひきこもりの長期化が課題であることがわかります。同時に親族が長期間にわたりひきこもりの方を支援し続けている実態があり、ひきこもり当事者への支援と共に、家族支援も課題となっています。

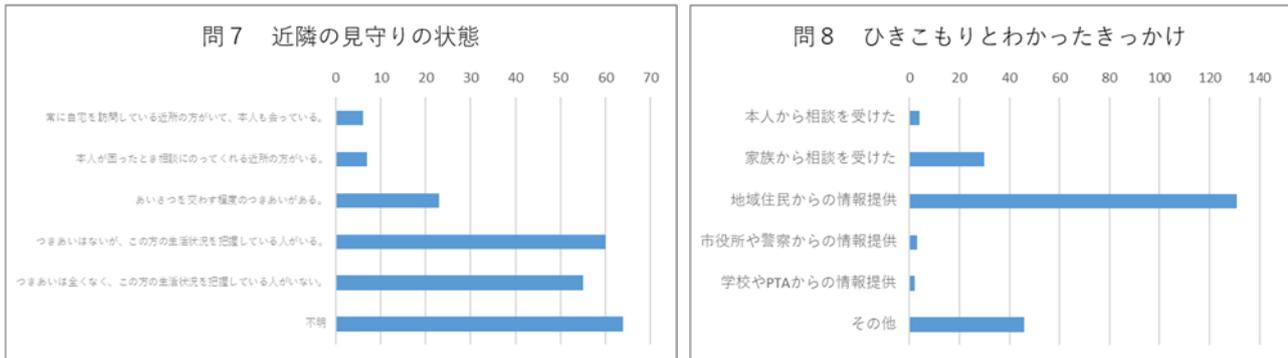
(3) 外出の状況

回答のあったひきこもり状態の方、218名の内、民生委員が最近(2~3カ月の間)見かけた方は93名、見かけない方は125名でした。また、見かけた場所は、自宅周辺が59%と最も多く、次いでスーパーの17%となっています。



(4) 近所との関わりとひきこもりと分かったきっかけ

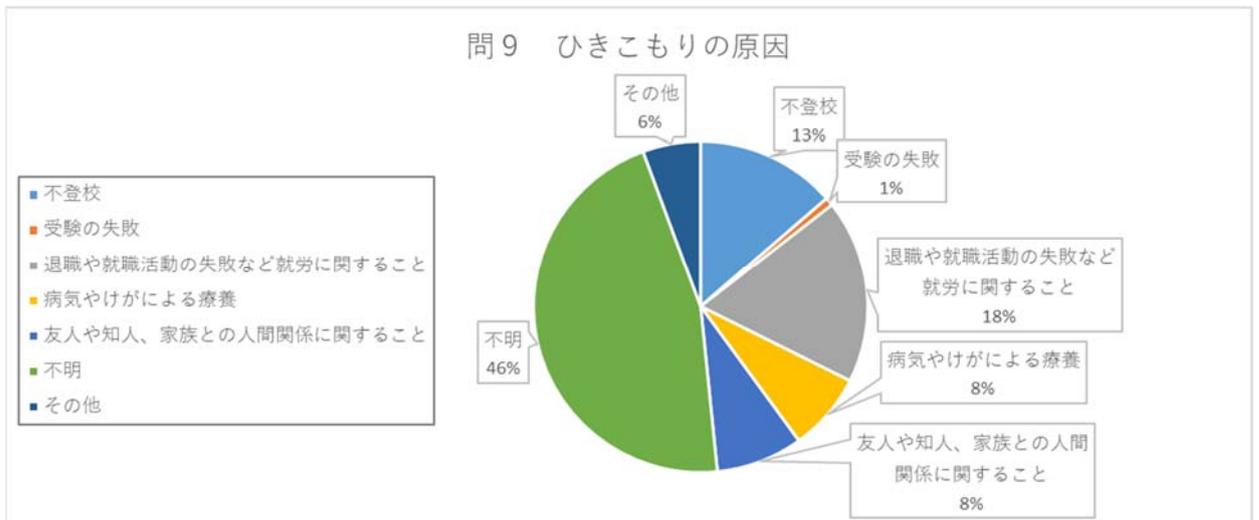
回答のあったひきこもり状態の方の近所との関わりについて、近所付き合いはないが生活状況を把握している人がいる方が60名と最も多く、次いで近所付き合いも生活状況を把握している人もいない方が55名となっています。また、ひきこもりと分かったきっかけは地域住民からの情報提供が最も多い131名、次いで家族からの相談の30名となっています。



ひきこもりの方の近所付き合いは極めて希薄であるにも関わらず、地域住民からの情報提供でひきこもりの方がいることを知った民生委員が多いことから、地域住民の関心の高さがうかがえます。しかし、本人や家族からの相談がないために、地域として対象世帯に深く関わることができずにいるケースが多くみられます。

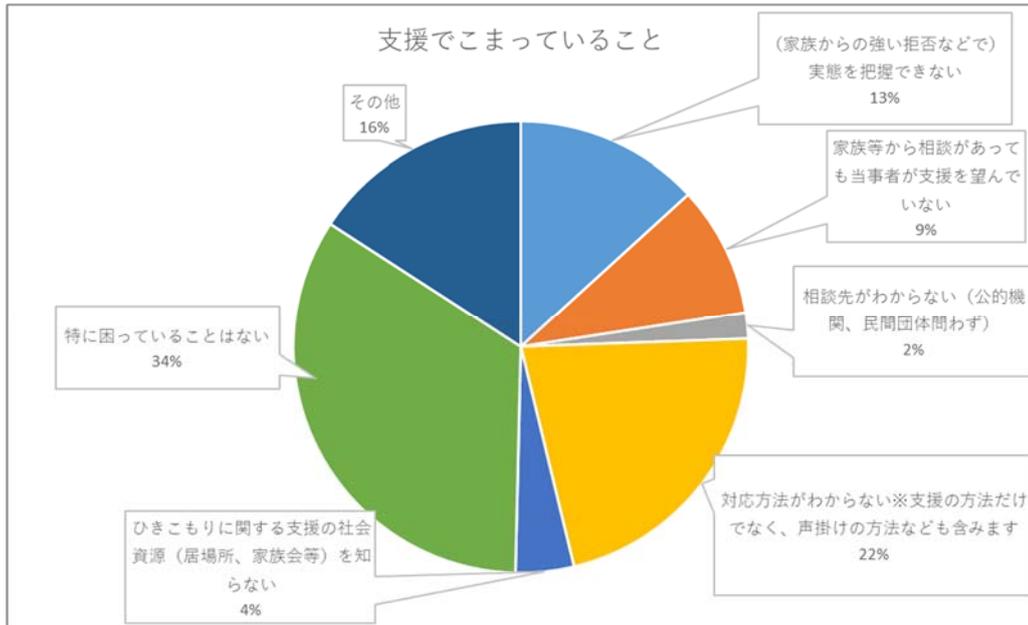
(5) ひきこもり状態となった原因

ひきこもり状態となった原因は就労に関することが最も多く18%、次いで不登校の14%となっています。また、約半数は原因が不明となっています。



(6) ひきこもり支援で困っていること

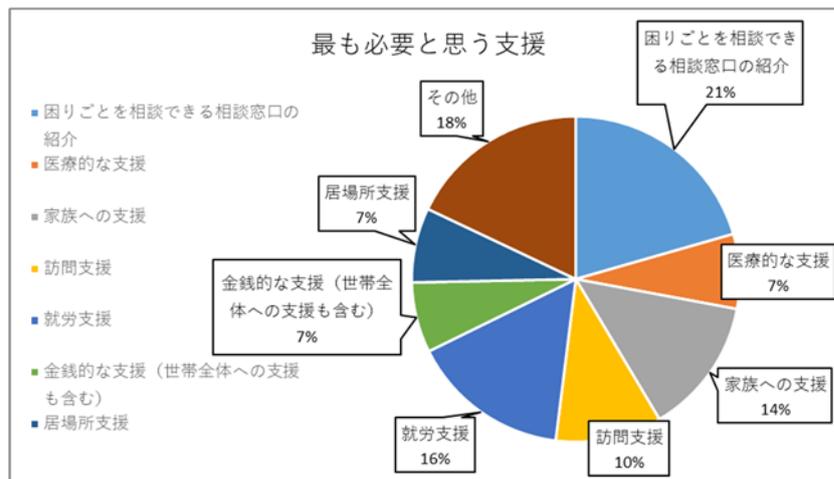
民生委員の方がひきこもりの方への支援で困っていることは、対応方法がわからないが最も多い 22%、次いで実態を把握できないが 13%、当事者が支援を望んでいないが 9%となっています。また、特に困っていることはないも 34%となっています。



ひきこもり支援では、特に困っていることがないという回答が多くなっていますが、現状親族が健在で、世帯として問題が顕在化していないため、特に困っていないという意見が多く見られました。対応方法がわからないも 22%を占めることから、必要なタイミングで利用できる支援の周知が課題となっています。

(7) ひきこもり支援で最も必要な支援

民生委員の方が把握しているひきこもりの方に対して最も必要と思う支援は、困りごとを相談できる相談窓口の紹介が 21%で最も多く、次いで就労支援 16%、家族支援 14%となっています。



ひきこもりの方への支援は、世帯状況により必要な支援も異なることから、アンケートでも意見が分散しています。その中でも相談窓口への要望が多い結果となりました。

(8) その他、意見等

- ① ひきこもりの情報が入ってこない。相談もない。
- ② 民生委員の業務として関わるのが難しく、把握できたとしてもどう関わっていかかわからない。
- ③ 担当世帯数が多く、全世帯の把握はできない。